

庄屋野遺跡

—第9次発掘調査—

令和4(2022)年12月

久留米市教育委員会

序

福岡県久留米市は、福岡県第3位の人口を誇る県南の中核都市です。その歴史は古く、旧石器時代から人々の生活の痕跡が残されています。交通においては、縦横の陸路と筑後川の水運が交差する好立地を有し、九州の心臓ともいえる重要な位置を占めています。

今回の調査は、久留米市城の西部に位置する安武町で実施しました。この調査成果が、郷土学習や地域振興、文化教育の発展に寄与できることを願います。また、発掘調査に際して、土地所有者をはじめ、地域住民の方々に多大なご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

令和4年12月28日

久留米市教育委員会
教育長 井上 謙介

例言

1. 本書は、宅地造成に先立ち、株式会社マツウラ 代表取締役 松浦文人氏の委託を受けて実施した、庄屋野遺跡第9次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の大隈彩未が担当した。
3. 遺構実測図の作成は、大隈と当課職員の熊代昌之、会計年度任用職員（発掘作業員）の原学、日比生勝、舟越朝菜、宮原眞助、山口誠也が行い、浄書は大隈が行った。
4. 遺構写真はCanon EOS 5 D MarkIVを用いて大隈が撮影した。調査区の全景写真は、有限会社空中写真企画に委託し、ドローンをを用いて撮影した。遺物写真は、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、Canon EOS 6 D Mark IIを用いて当課職員の江島伸彦が撮影した。
5. 図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第II座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成28年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。
6. 遺構表記の略記号は、SD-溝、SP-ピット、SX-その他の遺構を意味する。
7. 実測図と観察表、写真図版の遺物番号は全て同一である。
8. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
9. 本調査の略記号はSYN-009、調査番号は202203である。
10. 本文の執筆は大隈が行い、編集は江島が行った。

本文目次

I. はじめに	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	4
IV. 総括	6

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

本調査は、宅地造成に伴う事前の発掘調査である。令和3年9月2日、土地所有者の株式会社マツウラ 代表取締役 松浦文人氏から久留米市安武町安武本字庄屋野二2849番、字庄屋野五2953番1における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である庄屋野遺跡の範囲内にあたり、過去には導水路整備や圃場整備に伴って4度（第1～4次調査）、宅地造成や専用住宅建設に先立って3度（第5～7次調査）の調査が行われている。対象地の北西部の隣接地では、平成2年度に農業用水専用埋設に先立つ第4次調査が実施され、古代のピットや近世以降の溝や近世墓が確認されている。試掘調査でも遺構が確認されたため、発掘調査が必要である旨を回答した。令和4年4月1日に発掘調査の依頼が提出されたため、土地所有者と久留米市長原口新五は、4月5日付で庄屋野遺跡第9次調査の委託契約を取り交わした。

現地での発掘調査は、4月11日に着手し、同月22日に終了した。遺物整理と報告書作成は、同年12月28日まで行った。対象面積2,057㎡のうち、調査面積は270㎡である。

2. 調査及び報告書作成にかかる体制

調査委託者：株式会社マツウラ 代表取締役 松浦 文人

調査主体：久留米市教育委員会 教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市市民文化部 部長：竹村 政高

次長：深堀 尚子

文化財保護課 課長：水島 秀雄

課長補佐：田中 健二

課長補佐兼主査：白木 守・丸林 禎彦

主査：小澤 太郎

事務主査：江島 伸彦

事前確認・調整担当：小澤 太郎・江島 伸彦・熊代 昌之

発掘調査・報告書作成担当：大隈 彩未・江島 伸彦

整理担当：米澤美詠子・宮崎 彩香・今村 理恵

発掘作業員（会計年度任用職員）

青木 佐智子・石橋 康子・加藤 登・鐘江 清・川島 絵津子・川野 洋之・久保田 英嗣
合戸 喬一・進上 裕永・高崎 佳枝・高松 登・永田 徹・原 学・原口 貞子・平田 広之
日比生 勝・舟越 朝菜・本庄 郁子・宮原 眞助・村田 雅巳・諸藤 稔・山口 誠也

整理作業員（会計年度任用職員）

大津山 恵津子

3. 調査の目的と経過

今回の調査は、庄屋野遺跡の広がりを確認することを目的に実施した。令和4年4月11日から12日まで重機で調査区の表土剥ぎを行った。12日に遺構検出や遺構の掘り下げを開始し、並行して実測や写真撮影などの記録を行った。4月20日に調査区の全景を撮影した。その後、地震による地割れ痕跡を重機を用いて断ち割り、土層断面の実測を行った。4月22日に調査区の埋め戻しを終えて現地での発掘調査を終了した。

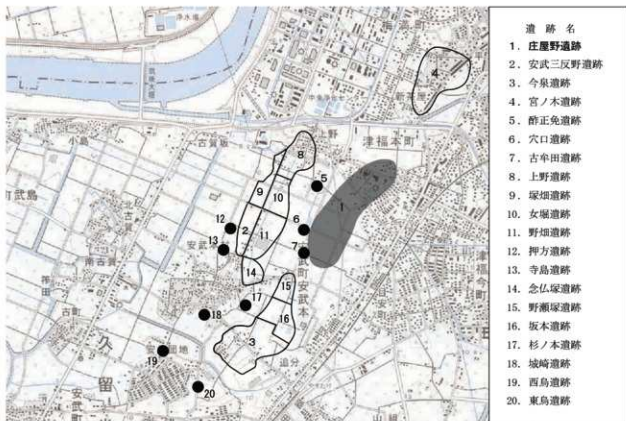
遺構配置図はトータルステーションを用いて作成し、測量データは株式会社CUBIC製の「遺構くん cubic」で編集・保存した。ただし、土層断面図は水系メッシュ法(1/10)で記録した。

II. 位置と環境

久留米市は筑紫平野の中心部、筑後川の中流域に位置する。筑後川は久留米城付近で流れを南西へと変え、その左岸には筑後川や金丸川、広川によって形成された氾濫原が広がる。氾濫原の東側には標高10m前後の低台地が点在しており、庄屋野遺跡はこの台地上に位置する。

縄文時代の遺構として、落とし穴状遺構が挙げられる。念仏塚遺跡のほか、庄屋野遺跡と穴口遺跡、古牟田遺跡、野畑遺跡、野瀬塚遺跡、今泉遺跡、坂本遺跡では列状に確認されている。

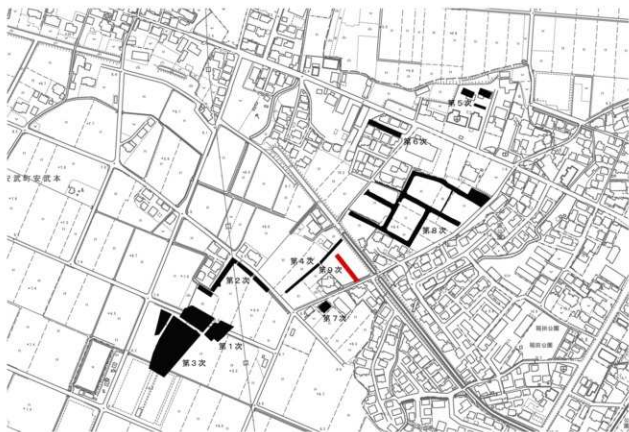
弥生時代になると台地上に集落と墓城が分布する。前期には、城崎遺跡で土坑、野畑遺跡で貯蔵穴、塚畑遺跡や坂本遺跡で堅穴住居が確認されたほか、今泉遺跡では前期末の堅穴住居20基と土



第1図 遺跡分布図 (1/25,000)

坑 23 基が馬蹄状に配置される集落が検出された。墓域は、酢正免遺跡の土壇墓、安武三反野遺跡では前期末の壺棺墓が 18 基見つかった。中期になると居住域は南方へと展開する。中期初頭には、庄屋野遺跡で台地北端を廻る大溝が検出されており、環濠集落の存在が示唆される。中期前半には酢正免遺跡や安武三反野遺跡で土坑群が検出されたほか、東鳥遺跡では 22 基の堅穴住居と住居の側に掘られた 16 基の土坑からなる集落が検出された。墓域として、安武三反野遺跡で甕棺墓と石蓋土壇墓、木棺墓からなる列状埋葬が確認された。後期には、塚畑遺跡で環濠を伴う集落が営まれる。周辺では、上野遺跡と庄屋野遺跡で堅穴住居、押方遺跡で掘立柱建物や堅穴住居が確認されている。安武三反野遺跡では、大溝に加え 30 棟の掘立柱建物群が検出され、北隣の塚畑遺跡の集落の南限を示唆する。この間、野畑遺跡では前期末から終末期にかけて掘立柱建物や土坑が分布し、塚畑遺跡の大溝と同方向の大溝が検出されたことから、一続きの集落が存在したと考えられている。

古代の安武町一帯は、『和名類聚抄』の三瀨郡に相当し、三瀨郡 8 郷の一つである田家郷に比定されている。野畑遺跡では総柱建物を伴う 30 棟近い建物群が検出され、土坑から刻書土器が出土した。念仏塚遺跡では正方位の建物群や耳皿、「大印」「南宅氏」と書かれた墨書土器が出土し、8～9 世紀の 48 棟の建物群が検出された。野瀬塚遺跡では、二彩陶器や「三万大領」「大領」「三万少」などと書かれた土師器が出土した。これらの遺構は、田家郷に関連する官衙的建物と想定されている。8～10 世紀にはこの他にも、庄屋野遺跡や今泉遺跡、天神免遺跡で館跡、宮ノ木遺跡や酢正免遺跡、寺島遺跡、杉ノ本遺跡で集落遺構が見つかるなど、広範囲に遺構が分布する。



第 2 図 調査地点と周辺地形図 (1/5,000)

III. 調査の記録

1. 基本層序 (第3図)

対象地は南側の道路面より約1m低い畑地である。調査区北東壁の表土は、全部で3層からなる。上から、黄灰色土が0.2m、暗灰黄色が0.2m、黒褐色土が0.15～0.4m堆積している。黒褐色土層からは、近世陶磁器の染付や挿鉢が出土した。

2. 検出遺構

今回の調査では、溝2条、ピット多数、地割れ痕跡3条、倒木痕を検出した。

溝

SD 1 (第4図)

調査区北西部にて検出された東西に走る溝である。上端幅1.0m、深さ0.32mを測る。埋土から土師器の細片や須恵器の細片が出土している。表土の最下層から近世陶磁器が出土していることから、近世以前の所産と考えられるが、明確な時期決定には及ばない。SX 18に後出する。

SD 8 (第4図)

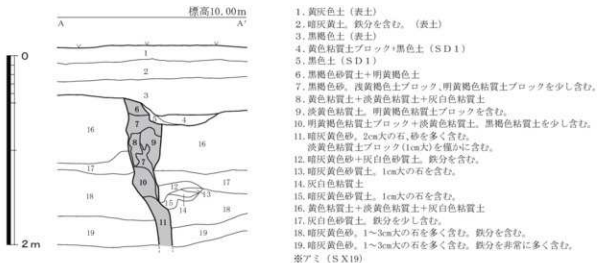
調査区南部にて検出された東西に走る溝である。上端幅1.0m、深さ0.3～0.4mを測る。SD 1と平行している。出土物は、陶器の甕や瓶の破片があり、近世の溝といえる。

その他の遺構

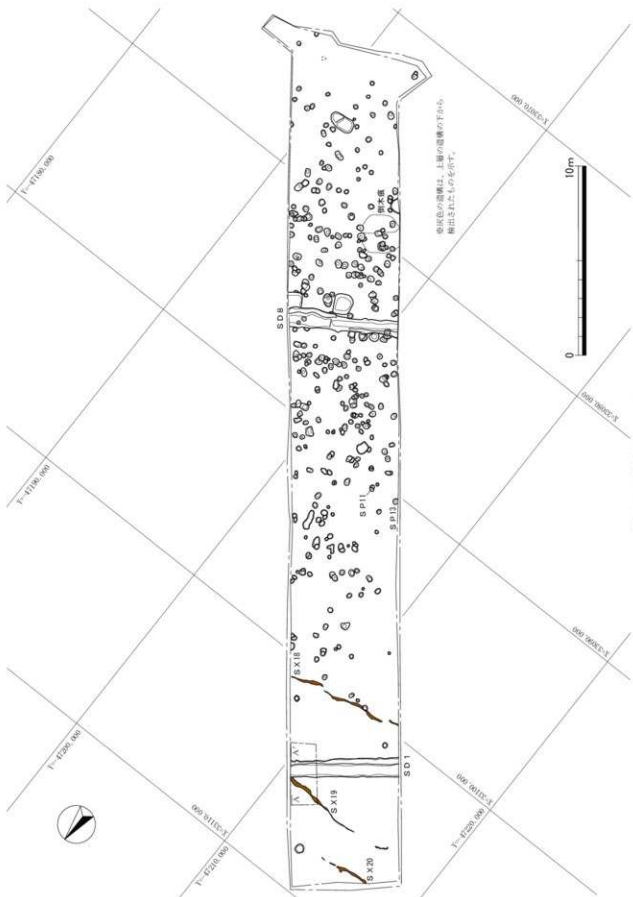
SX 17・18・19 (第3・4・6図)

調査区の北西部で3条の地割れ痕跡を検出した。南東からSX 18・19・20とし、SX 18・19については断ち割りを行い、SX 19では明確な地割れ痕跡を確認できた。東西方向に雁行している。

SX 19は幅5cm～0.25m、深さは1.6m以上を測る。平面形はわずかに弧を描く。断面に関して、ゆるいS字状に北から南に湾曲している。地割れ部分は、第6層や、第16・17層と同様の埋土が



第3図 調査区北東壁土層断面図 (1/40)



第4図 遺構配置図 (1/200)

ら構成される第8・9・10層、その隙間を埋めるように第7層の黒褐色砂層や第8層の暗灰黄色砂層が確認できる。噴砂の供給源となる砂層は、検出面から1.6mの段階では確認できなかった。時期はSD1に先行していることから、近世よりも古いものと考えられる。また、地割れの北側と南側では南側が約0.1～0.2m低くなっている。

3. 出土遺物 (第9図)

出土遺物の総量はビニール小袋14袋分である。遺物は、包含層から近世陶器の挿鉢底部片が出土している他、ピット、溝状遺構から須恵器甕片や古式土師器の壺口縁片、近世の土師質土器が出土している。大半が細片であるため、図示せず写真のみを掲載する。

1は、SD1からの出土。土師器の壺口縁片。ややひらく口縁で、頸部に向かって内湾し、屈曲部には突帯が巡る。先端部分は欠損する。色調は橙色で焼成は良好。胎土は精緻でやや粗い砂で1～2mmの砂粒が混じる。2と3は、表土層からの出土。2は陶器挿鉢の底部で、黒釉、内面には櫛目が格子状に施される。底径12.2cm、残存高4.4cmを測る。胎土の色調は赤褐色で内外面に鉄泥釉がかかる。外面には更に灰釉をかける。焼成は良好で、胎土は精緻である。3は土製品で、両端が欠損しているが、側面は残っているため棒状の方形であったと推測される。側面のうち三面には被熱されたような黄白色の異物が付着している。残り一面に異物は付着しておらず、接地していたため焼成の影響を受けなかったものと考えられる。窯燃焼室の壁面に使用されたトンバイである可能性がある。残存長は3.9cm、幅5.2cm、高さ4.8cmを測る。色調は暗い赤褐色で焼成は良好。胎土はやや粗い砂で1～2mmの砂粒が混じる。

IV. 総括

庄屋野遺跡は縄文の落とし穴遺構と古代の土坑や井戸が確認されている遺跡であり、谷を隔てた南西の台地に立地する野瀬塚遺跡を中心に古代の遺構が展開している。しかし、今回の調査では、近世の溝、近世以前の地割れ痕跡、倒木痕が検出されたのみで、古代の遺構はピットのみであった。

3条の地割れ痕跡を検出し、SX19の断ち割りを実施したところ、地震に起因する痕跡が確認できた。地割れが発生した時期については、SD1に先行しているため、近世以前の地震活動に伴うものであると考えられる。久留米市周辺で近世以前に発生した大きな地震は、天武7年(678)12月に発生した「筑紫大地震」がある。『日本書紀』天武七年十二月条に記述があり、耳納山地北麓に存在する水縄断層系の活断層によるものである。

安武町一帯でも、庄屋野遺跡や女堀遺跡、城崎遺跡、西鳥遺跡、東鳥遺跡などで地割れ痕跡や噴砂痕が検出されている。特に東鳥遺跡では、弥生時代の堅穴住居に地割れ痕跡が後出しており、伏せて埋まった弥生土器が地割れで二分された状態で出土した。また、庄屋野遺跡第5次調査でも、地割れ痕跡が弥生時代前期末～中期初頭の大溝を切った状態で検出されている。

しかし、検出された地割れ痕跡の時期については、今回の調査で「筑紫大地震」に起因するものと積極的に判断できるものはない。周辺の状況から、当該期のものである可能性を指摘するに留める。



第5図 調査区全景（南西上空から）



第6図 SX 18・19・20 全景（南西上空から）



第7図 調査区北東壁土層断面（南西から）



第8図 調査区より市街地を望む（西上空から）



第9図 出土遺物写真

報告書抄録

ふりがな	しょうやのいせき-だい9じはっくつちょうさほうこくー							
書名	庄屋野遺跡 一第9次発掘調査報告一							
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第438集							
編者名	大隈 彩未・江島 伸彦(編)							
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課							
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL: 0942-30-9225 FAX: 0942-30-9714 Email: bunkazai@city.kurume.lg.jp							
発行年月日	2022(令和4)年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
しょうやのいせき 庄屋野遺跡 だいじちゅうさ 第9次調査	福岡県久留米市 安武町安武本 字庄屋野22849番、 あびしょうやのこ 字庄屋野五2953番1	40203	31131	33° 17′ 50″	130° 29′ 35″	20220411 ～ 20220422	270㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
庄屋野遺跡 第9次調査	集落	古代 近世 不明	ピット 溝 地割れ痕跡 地割れ	多数 2条 3条	土師器、須恵器、 近世陶磁器など	地震に伴う地割れ痕跡を 検出		
要 約								
今回の調査では、地震に伴う地割れ痕跡を3条検出した。近世以前の溝SD1が後出しており、近世以前の地震に伴うと考えられる。周辺では、第5次調査で地割れ痕跡が確認されているほか、女堀遺跡や城崎遺跡、西島遺跡、東島遺跡でも噴砂や地割れ痕跡が認められており、SX18・19・20もこれらに関連していると推測できる。								
土木工事の届出日	令和4年4月1日				遺物の発見通知日	令和4年4月27日 (4文財第307号)		

庄屋野遺跡

―第9次発掘調査―

久留米市文化財調査報告書 第438集

令和4年12月28日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市 市民文化部文化財保護課

印刷 中村印刷株式会社

久留米市梅溝町972